# まるい校舎

加古川市立川西小学校
校長室だより 第14号
令和６年10月17日

## 校庭にヒガンバナが咲きました

10月中旬になって、朝夕の気温だけでなく昼間の気温も下がってきました。日差しがある場所では、まだ汗ばむような暑さになる日もありますが、季節は「秋」に向かっています。

運動会（10/5）の前に校庭の除草作業を行ったのですが、今年はその除草作業の後に、ヒガンバナがたくさん咲きました。ヒガンバナは、地中にある球根が地面の温度を感じながら花を咲かせるタイミングを計っているということですが、今年は運動会の少し前から朝夕の気温が下がり始めたので、除草作業のタイミングとヒガンバナが花を咲かせるタイミングが上手く合っていたのだと思います。

たくさん咲いていたヒガンバナですが、すでに校庭では見ごろの時期は終わっています。でも、ヒガンバナの根元辺りを見ると、細長くてつるんとした濃い緑色の葉がありました。ヒガンバナは、ハミズハナミズ（葉見ず花見ず）という別名があるように、花が咲く時期には葉は見られず、葉が茂る時期には花は咲きません。花が見られなくなった校庭のヒガンバナの根元辺りの葉が、これから冬の間に栄養をたっぷり作り続けて球根に蓄えます。ヒガンバナの葉は夏前には枯れてしまいますが、葉が作った栄養が来年の秋にヒガンバナを咲かせるエネルギーになるそうです。

４年生の国語の教材に、新見南吉（にいみなんきち）さんの「ごんぎつね」という物語文があります。60年以上も前から教科書に載っているそうなので、「誰もが一度は読んだことのある物語」ではないでしょうか。その「ごんぎつね」のお話にもヒガンバナが描かれています。秋の訪れを感じさせる花として、昔から身近にあったことがうかがえますね。